

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご了承くださいませようお願いいたします。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) メインクエスト編



共通メインクエスト その5

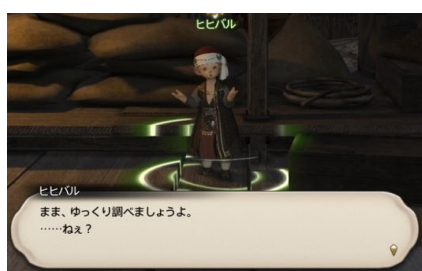
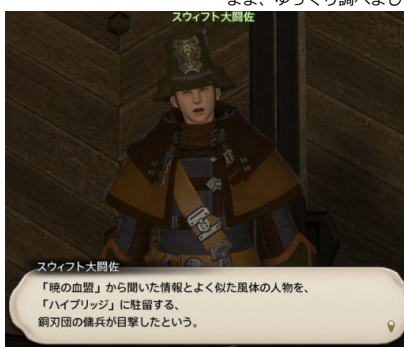
不吉な気配 ～ ダンタンクール家の悲劇

不吉な気配

ミンフィリア： 立て続けて悪いのだけど……次の依頼が入る前に、調査を進めておきたい案件があるわ。
そう、あなたが「**トラク**の千獄」で出会ったという、「仮面の男」……アシエン・ラブレア。彼について情報を集めたいの。
アシエンについて、わかっていることは少ないわ。……確実なのは、アシエンと呼ばれる存在は、混沌と戦乱を招くということ。
このエオルゼアが抱えている問題にも、アシエンが何らかの形で関わっている可能性がある。
わたしたちは、それを突き止めてはならない。
各国のグランドカンパニーに協力を要請したところ、「不滅隊」から「仮面の男」の目撃情報が入ったわ。
まずは作戦本部を訪ねて、その足取りを追いましょ。
相手は未知の存在よ。……くれぐれも気をつけて。

スウィフト大尉佐： ……来たか、暁の者。件の「仮面の男」について、目撃証言を得たぞ。
「暁の血盟」から聞いた情報とよく似た風体の人物を、「ハイブリッジ」に駐留する、銅刃団の傭兵が目撃したという。
傭兵から聞き出せたのはそれだけだったが、あそこは飛空艇の発着場で、出入りする商人も多い。
調べれば、さらなる情報が得られるやもしれん。
東ザナランの現地に赴いて、商人の「ヒビバル」という男を訪ねるがいい。
客に飢えたヤツのこと、邪険にはされないだろう。

ヒビバル： ようこそ、ハイブリッジへ！ 冒険者さんとお見受けしますが、ご休憩ですか？ それとも依頼？ もしや蛮族の討伐に……。
おやまあ、人探しですか！ はて、「仮面の男」ねえ？ たしかにそんな噂を聞いたような……。
まあ、ゆっくり調べましょよ。……ねえ？

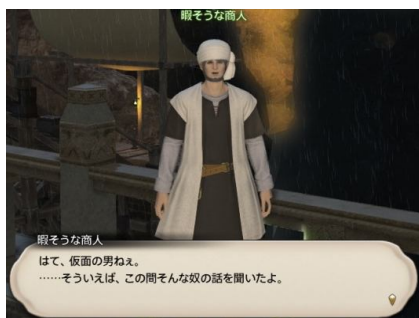


橋上の証言

ヒビバル： まったく、参っちゃいますよ。蛮族どもの襲撃のせいで巡礼者が減りましてねえ。大儲けの予定が、大損こいてるんです。
ナル・ザル教団が遺跡調査に巨費を投じていると聞いて、巡礼者が増えると踏んでいたんですが……。まったく、アテが外れましたわ。
冒険者さんは、お急ぎの旅ですか？ 私ら、ハイブリッジの商人を助けると思って……。え、「仮面の男」の目撃情報？
なんて、せっかちなお人だい！ それなら、ご自分でそこの商人に話を聞いてくださいよ。

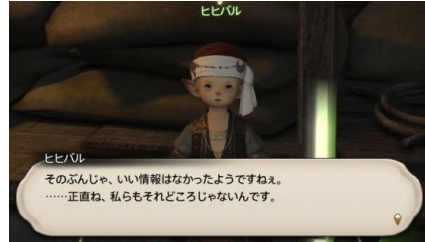
暇そうな商人： はて、仮面の男ねえ。……そういえば、この間そんな奴の話を聞いたよ。
フードを被った、いかにも怪しい感じの男だろ？ だけど、直接見たわけじゃないからなあ……。

ぼんやりした商人： 仮面を着けてフードを被った怪しい男？ そんな目立つ奴がいたら大歓迎だね。客寄せにちょうどいいもんさ。
最近じゃ、キギルン族の襲撃を怖がってか、巡礼者もすっかり減っちゃったからなあ……。



話し好きの商人： 知ってるよ、あの怪しい仮面の男だろ？ 見かけた程度の話なら、最近はやそでもよく聞くなぁ。
まあ、見た目が怪しいってだけで、どこの誰なのかは知らないけど。誰に聞いても、似たようなもんだと思うよ。

ヒビノル： そのぶんじゃ、いい情報はなかったようですねえ。……正直ね、私らもそれどころじゃないんです。
キキルン族の襲撃が激化して、商売あがったりなんで。何者かが奴らを扇動しているんじゃないかって
噂が立つ程度には、私らも切迫しているんです。
ええと……「仮面の男」でしったけ？もし見かけたら、覚えておくようにしますから。それじゃ、悪く思わんでくださいよ。



キキルン族と謎の男

ヒビノル： おお、これぞナル神のお導き！ 思い出したことがありますてね！ 例の「仮面の男」のこと、まだお探しなんでしょう？
ここ最近、キキルン族の動きが活発になって、頻繁にハイブリッジが襲撃されてるってのはお教えしましたよね？
そのキキルン族が、ここらでは見かけない怪しい大男と密会しているのを見たって話があるんですよ。
しかも、目撃者は1人や2人じゃないんです！
怪しい大男が目撃されたのは、キキルン族の棲家です。あんたさんが探している奴かどうかわかりませんが、調べてみてはいかがですかい？

ヒビノル： おお、冒険者さん！ キキルン族の棲家に行ってきたんでしょう？ 何か、手がかりはありましたかい？
……おや、なにか書かれてる。この文字は、アマルジャ語のようだねえ。ええと、内容は……「人買い」指示書！？
つまりキキルン族は、ハイブリッジで拐った人らをアマルジャ族に売り渡そうとしてたってことですかい！？ なんとまあ……。
蛮族どうしが手を組んで人拐いとは、物騒な世の中になったもんです……。私らも気をつけるようにしなきゃあねえ。
そういえば、あんたさんが探してた「仮面の男」。大男の正体がアマルジャ族だったっていうのなら、
調査は空振りだったってこと……ですねえ。
いい、いやあ、なんかこっちの事情だけ解決してもらったみたいで悪いねえ。それじゃ、そっちの人探しもうまくいことを祈ってますよ。

陽動の狼煙

ヒビノル： いいところにきましたね、冒険者さん！ あんたさんが探していた「仮面の男」について、いい情報が手に入ったんですよ！
今度は間違いない情報ですよ！？ 何せ、私もこの目で見たんですから！
その男はね「ザルの祠」あたりの崖で、「狼煙」を使って、蛮族とやり取りしていたんです。
さすがに、その内容まではわかりませんでした……。
そこで、ちょっと聞いたんですよ！ 「仮面の男」みたいに、この「小さな火種」で狼煙を上げれば、
男と繋がりのある奴をおびき出せるんじゃないかってね！
どうです、いい情報でしょう！？……で、ご相談なんですがね。これが終わったら、しばらくここに逗留ってことは……。

ヒビノル： 帰ってきましたか、冒険者さん。探し人……「仮面の男」の手がかりは掴めましたか？
これは……いや、間違いない。冒険者さん、こいつは「壊神ラールガー」の神符ですよ！
「壊神ラールガー」ってのは、帝国に占領された都市「アラミゴ」の守護神でしてね。
その神符となりゃあ、愛国心の強いアラミゴ人なら、まず間違いなく持っているはずですよ。
そんなものを持った奴が取引に現れたってことは、「仮面の男」は蛮族どころか、アラミゴ人とも繋がりがあるってことなんですかねえ……。？
……どちらにしても、お氣をつけを。あんたさんの探し人は、かなり厄介な奴ですよ。

リトルアラミゴへの旅路

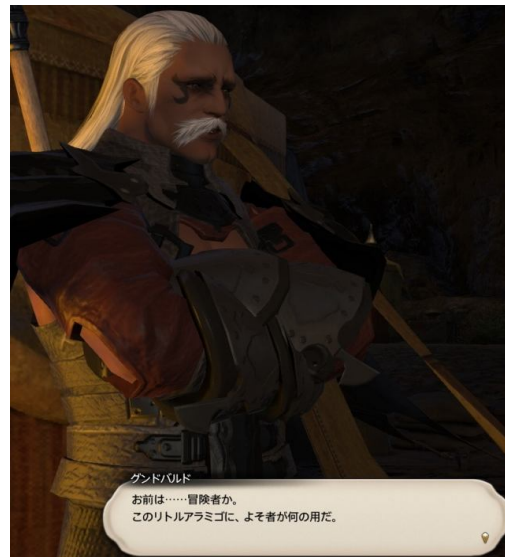
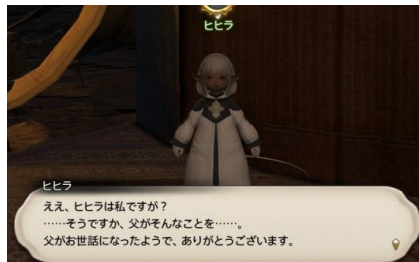
ヒビノル： ……私ね、あの場にアラミゴ人が現れたってのが、あれからどうにも気になってましてねえ。
冒険者さん、例の「仮面の男」について調べるなら、「リトルアラミゴ」へ行ってみてはいかがでしょう？
アラミゴ人を探るなら、あそこに行くのが手取り早い。
……ただ、あそこはアラミゴの流民の中でも、ウルダハに馴染めなかった連中が集まる場所ですてね。
人心も大地も荒れはてた、無法地帯と呼んでもいい場所だ。
流民たちはひどく閉鎖的で、よそ者を嫌うと聞きます。冒険者といえど、軽い気持ちで入ったらどんな扱いを受けるかわかりませんよ。
……ヒビラという娘を訪ねてください。私の娘なんですがね、家を飛び出したと思ったら、
今は「リトルアラミゴ」に住んでいるようでして。不肖の娘ですが、きっと何かのお役に立てると思います。
あんたさんには、このハイブリッジに滞在してもらって、バシバシお金を使ってもらいたかったんですがねえ。
……まったく、我ながら商売に向かない性格ですよ。

ヒヒラ

： ええ、ヒヒラは私ですが？ ……そうですか、父がそんなことを……。父がお世話になったようで、ありがとうございます。
……「仮面の男」ですか？ いえ、私には心当たりが……。もしかしたら、顔役のグンドバルドさんでしたら何かご存知かもしれません。

グンドバルド

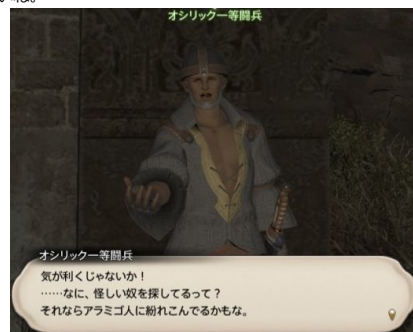
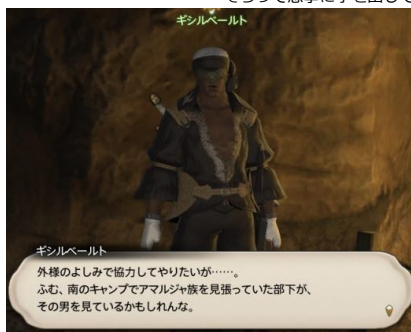
： お前は……冒険者か。このリトルアラミゴに、よそ者が何の用だ。
「仮面の男」を追っているだと？ ……私からお前に話せることは何もない。
帝国の侵略により祖国を追われた我らアラミゴ人が、捲土重来を期すべく雌伏のときを過ごす場所……それがここ、リトルアラミゴだ。
私たちは、よそ者の立ち入りを望まない。仮面の男についても教えるようなことはない。……早々に立ち去るがいい。



よそ者たちの奮闘

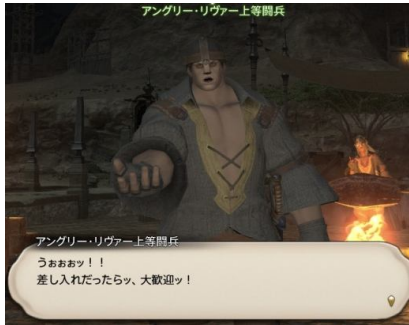
ギシルベールト： 私はギシルベールト、ここの警備を任されている。グンドバルドと話していたようだが、問題でもあったのか？
……ふむ、怪しい「仮面の男」を追っていると。よりもよって、このリトルアラミゴで人探しとはずいぶん難儀な話だな。
ここのアラミゴ人たちは、同胞以外に寄りつかない。俺たち「不滅隊」だって、食糧援助の契約がなきゃ、
寝ている間に荒野へボイさ。
外様のよしみで協力してやりたいが……。ふむ、南のキャンプでアマルジャ族を見張っていた部下が、その男を見ているかもしれんな。
ちょうど差し入れにするつもりだった「ザナラン紅茶」がある。これを渡せば、話もしやすからう。

オシリク一等闘兵： なんだあ？ 悪いが、余計なおしゃべりする体力はないぞ。
気が利くじゃないか！ ……なに、怪しい奴を探してるって？ それならアラミゴ人に紛れこんでるかもな。
どいつも死人みたいなツラしやがってさ。最近、妙にソワソワしてるみたいだし……。
そろって悪事に手を出してても、俺あ驚かないね。



アングリー・リヴァー上等闘兵： お前、アマルジャ族じゃないナッ！？　ならばッ、用はないッ！！
うおおッ！！　差し入れたったらッ、大歓迎ッ！
仮面の男ッ！？　知らんッ、俺たちが監視を命じられているのは、憎き黒光りアマルジャ族だけダッ！！

ヤズケニ等闘兵：　すみませんが、大事な監視の任務中ですので……。
これはこれは……。仮面をつけている人なら、巡回中に見ましたよ。男かどうかまではわかりませんが。
アラミゴ人と話していたから、顔を隠して逃げてきた流民かと……。違うんですか？



ギシルベールト：　部下たちの話は聞けたか？　……あまりいい証言は無かったようだな。やはり、アラミゴ人の協力が必要か。
こうなっては、一筋縄ではいかないぞ。それでも、その男を追うというなら助言はするが……。よく考えてみるんだな。

そこに故郷の形見はあるか

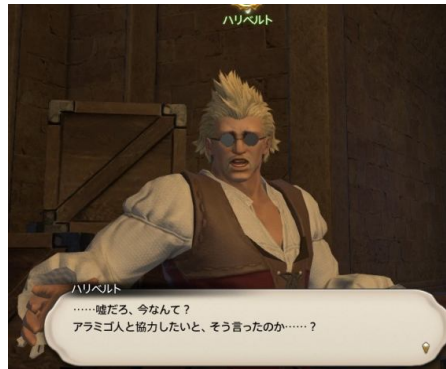
ギシルベールト：　やはり調査を続けるのか……。ならば、私にできる助言はひとつだけだ。
アラミゴ人には、金よりも故郷の土が効く。この地のアラミゴ人たちの協力を得たければ、彼らとの間を仲介してくれるアラミゴ人を探せ。
無論、この奴らは話にならん。ほかの場所にいる……そうだな。グンドバルドと同じ「アラミゴ解放軍」の奴がいいだろう。
知人にアラミゴ人はいるか？　誰か仲間がいるなら、ツテがないか相談してみるといい。

ミンフィリア：　おかえりなさい！　「仮面の男」について、何かわかったかしら？
……なるほど、調査が行き詰まっているのね。アラミゴの人たちが他民族を拒絶しているのは、悲しいことだけど納得できるわ。
20年ほど前、アラミゴは「ガレマル帝国」の侵略を受け、以来ずっと帝国の属州として占領されている……。
流民たちは、そんな場所から決死の覚悟で逃れてきた。だけど、どここの国にも流民全てを受け入れる余裕はない。
苦しい生活、偏見、差別……彼らの痛みは強くなる一方よ。
それを知ることが、互いの理解に繋がると信じたいけど。「心の壁」か……。
「暁の血盟」にもアラミゴ出身の仲間がいるの。彼なら「アラミゴ解放軍」を知っているかもしれないわ。あなたに紹介するわね！

アラミゴ解放軍を知る者

ミンフィリア：　あなたに、アラミゴ出身の仲間を紹介するわね。「ハリベルト」という人よ。
彼、ハリベルトは、アラミゴ奪還の糸口を探すため、わたしたちの仲間になったの。事情を話せば、絶対に力を貸してくれるわ。
今は、この砂の家で待機しているはずよ。倉庫の方を、探してみてくれる？

ハリベルト：　おっと、こりやどうしたことだ。うちのエース様が、俺なんかには何の用で？
……嘘だろ、今なんて？　アラミゴ人と協力したいと、そう言ったのか……。？
ああ……まさかアンタの口から、祖国の名が聞けるなんて！　しかし何だって「アラミゴ解放軍」なんだ……。
ほかの願いなら、死地にだって飛びこむのに！
俺はな、解放軍を抜けた身なんだ。このハリベルトという名は、解放軍にとって、理想を違えた愚か者の名でしかないのさ……。
だが、アンタの力になれるヤツを知ってる。黒衣森の南部森林にある「クォーリーミル」で、
アラミゴ流民の仲介人をする「アルブレタ」って女だ。
彼女に、解放軍を紹介してもらおうといい。道は違えど郷国の友、解放軍がアンタの力になると信じているよ。



アルブレダ：いかにもアタシがアルブレダだが……。『アラミゴ解放軍』を紹介しろたあ、アンタ、誰の差し金だい？
ハリベルトだって！？ 相変わずの大バカ野郎め、昔の女を頼るだなんて！ ……まあ、アンタを信頼できるってことはわかったがね。
解放軍に近づきたいなら……そうさね、そこで腐ってる『メッフリッド』の話を聞いてみな。流民の心を知る、それが最初の一步さ。



無慈悲な精霊

メッフリッド：お前、冒険者か？ 俺はメッフリッド、栄えるアラミゴ解放軍の一員だ。今は故郷を追われた哀れな敗残兵……だがな。
で、冒険者さんが、この俺にいったい何の用だい。

ガリエン：メ、メッフリッド隊長ッ！ ガリエンの奴、傷が腫んで、どえらい熱だ！ おそらく……今夜が山ですぜ……。



メッフリッド：くソッ！ だから、治療が必要だと訴えたってのに！ この集落の連中は、助けを求める俺たちの声を、一向に聞こうとはしないんだ……。
冒険者さんよ、頼む。部下が死にそうなんだ！ アルブレダに、この集落の奴に話を通して、治療させてもらうように言ってくれねエか！？

アルブレダ：なんだって、メッフリッドの部下が！？ ……いや、すまないね、私には何もできないよ。
アラミゴの同胞を見捨てるなんて、できることなら、私だってしたくないよ。でも、彼らに手を貸すことは、森の掟に反すること……。
掟を破れば、私らクォーリーミルの住人だって、この森にいられなくなっちゃう。
私ひとりならいざ知らず、みんなを巻き添えにはできないよ。
……この村の道士『シャルリス』に談判してごらん。外からきたアンタの言うことなら、もしかしたら、聞いてくれるかもしれない。

シャルリス：ふむ、アラミゴのメッフリッドさんたちを救いたいと……。……それは叶わぬ相談かもしれませんが。
これは私の意志ではなく、精霊の意思なのです。
この黒衣森に流れ着いた外つ国の稀人は、ここクォーリーミルで一晩を過ごし、精霊の審判を受けます。
精霊に拒否されれば、その者は森に住むことができません。
審判を受け拒否された者は、森の恵みを楽しむ資格を失う……。それが、この森の古よりの掟なのですから。



メッフリッド：ち、ちくしょう……何が「精霊の意思」だッ!? そんなもん、クソツ食らえだ!
森を出て行けっんなら、出て行け! でも部下たちは皆、過酷な旅でボロボロなんだ。奴らに、慈悲ってモンはねエのかよ!!

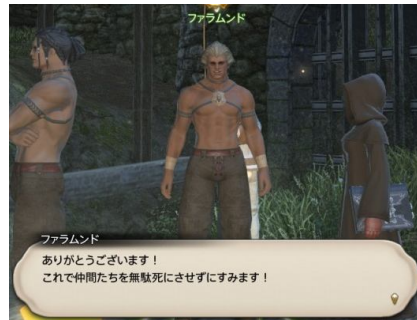
角薬が繋ぐ縁

メッフリッド：俺は部隊を率いてこのクォーリーミルにやってきた。外には村に入れない部下が、野営をして待っているんだ。
部下たちの体力は消耗して、もう長旅には耐えられねエ。
お前も見たとおり、ここのヤツらには頼めねエ。……だからこそ、冒険者のお前に頼みがある。
「アンテロープの大角」を、どうにか手に入れてくれ。故郷アラミゴでは、万病の薬になると言われているんだ。

メッフリッド：「アンテロープの大角」を手に入れてきてくれたのか?
すまん、助かる! だが、こいつは故郷に棲息する種とは、少し違うようだ。地元の者でもなければ、この角の調合方法はわからねエな。
あんた「バスカロン」って男を知ってるか? その男なら、よそ者だとして決して差別せず、
困ったことがあれば、誰の相談にも乗ってくれると聞いた。
たびたびすまねエが、そのバスカロンにこいつを渡し、薬の調合を頼んできてくれねエか?
もし薬ができたら、部下のファラムンドに届けてくれ。

バスカロン：よお、お前さんか! 冒険者稼業の調子はどうだい? 稼いでるんなら、うちで使っていきな!
なんだと、「アンテロープの大角」を薬に調合してほしいだ? ……さては、クォーリーミルのアラミゴ人の依頼か。
よし分かった。だが、調合している余裕もあるまい。ちょうど「手製の化膿止め」の作り置きがある。そいつを代わりに持っていきな。
なに、礼はいらねえよ。お前さんには、ずいぶん世話になったんだからな。今度来たときに、イッパイやってくれりゃそれでいいさ。

ファラムンド：メッフリッド隊長が依頼していた冒険者ですね? く、薬は手に入ったのでしょうか?
ありがとうございます! これで仲間たちを無駄死にさせずに済みます!
……メッフリッド隊長も、これでいくらか肩の荷が降りるでしょう。よかった……本当によかった……。



異邦の絆

メッフリッド：おい、お前ッ! 俺の部下を、ガリエンを見なかったか!? いつの間にか、いなくなっちゃまってんだ!
ガリエンは部下の中でも、とりわけ傷が重かった奴だ。早く薬を飲ませねエと死んじゃう……ッ! クソ、やっとなんか薬が手に入ったのに!
そうだ、「アルブレダ」なら何か知ってるかもしれねエ。頼む、彼女のところに行って、話を聞いてきてくれ!

アルブレダ：話は聞いているよ。メッフリッドの部下が失踪したらしいじゃないか。……実はしばらく前に、こんな手紙を託されてねえ。
「俺一人のために、皆に迷惑はかけられない。だから俺は部隊を抜けさせてもらいます。
心配しないでリトルアラミゴに出発してください。」
そう、お探しの男の手紙だよ。あの野郎、部隊のために自らを犠牲にするとはね。
義理と人情に生きる、アラミゴ人の鑑のような男だよ。
……しかし。傷付いた体で森を抜けようとするとは無謀すぎるね……。

メッフリッド：……そんなッ!? まさか、ひとりで背負い込んで森を抜けようってのか! ガリエン……バカ野郎ッ、無茶な真似しやがって!
俺たちは、これから手わけしてあいつを探す! 頼む、お前もあいつの捜索に協力してくれ!

ガリエン：はあはあ、チクショウ……。て、敵だ! 気をつけろッ!



メッフリッド： ガリエンッ！

ガリエン： た、隊長……すみません……。俺のことは構わず、リトルアラミゴに行ってください……。

メッフリッド： バカ野郎！ 部下を切り捨てて何の隊長かッ！ アラミゴ人は、決して仲間を見捨てたりしない。どんなに孤立しても、どんな逆境だろうとな俺たちは、共に祖国の復興を誓う「同志」なんだよ！ 俺は貴様を絶対に死なせたりさせねェ！ とともに両の足でアラミゴの土を踏むまではな！

ガリエン： メッフリッド隊長……。

メッフリッド： さっさと帰るぞ、バカ野郎。キツい刑罰を覚悟しろよ……傷が癒えたらな！
……礼を言うぜ。ガリエンが助かったのは、お前のおかげだ。俺たちは「クォーリーミル」に戻る、あとで会おう。
ガリエンの傷は大事に至らなかったよ。俺たちは当分、この村に居座ることになりそうだ。……居心地の悪い場所だけだな。

リトルアラミゴ再び

メッフリッド： お前には、何から何まで世話になったな。俺たちは故国で活動続けてきた「アラミゴ解放軍」だ。
何の因果か、こんな辺鄙な森に流れついちゃったがな。
アルブレダから聞いたんだが、俺たち解放軍を探してたそうじゃないか。なんでも、アラミゴ人に協力者がほしいんだって？
いいだろう、世話になった礼も兼ねて紹介状を書こう。「リトルアラミゴ」の「グンドバルド」という男に、渡すといいぜ。
俺がまだ駆け出しの新兵だったころの元上官だ。リトルアラミゴの内情を探るにあたって、いろいろと便宜を図ってくれるだろうぜ。

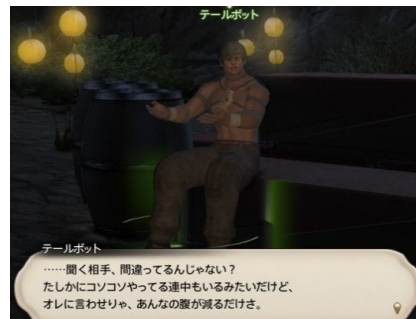
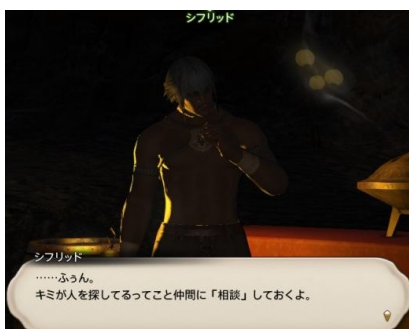
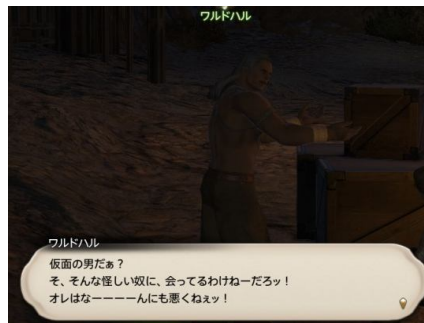
グンドバルド： お前が……懲りないな。リトルアラミゴは、よそ者を必要としていない。早々に立ち去るがいい……。
メッフリッド……懐かしい名だ……。戦火の中で別れてからずいぶん経つが、その名は故郷の歌や酒と共に、心の臓に刻まれている。
奴の信じたものならば、私も信じよう。お前の探していた「仮面の男」に心当たりがある……。
同胞たちの不利益にならないかぎり、答えよう。

密かな企み

グンドバルド： お前が探している「仮面の男」……よく似たよそ者と、うちの若い衆が密会していると聞いた。
私の名を出せば、本人たちから話を聞けるだろう。粗相をするかもしれないが、彼らは若い……。大目にみてやってくれ。

アダリンド： ……！ わたしは危ないって言ったのよ！ でも、彼があつた男を信じるって……
なあんだ、あなた何も知らないのね。グンドバルド様の紹介だっていうから、身構えちゃったじゃない！

ワルドバル： 仮面の男だあ？ そ、そんな怪しい奴に、会ってるわけねーだろッ！ オレはな———んにも悪くねえッ！



シフリッド： 仮面の男……さあ、知らないなあ。なんでそんなことを聞くんだい？
……ふうん。キミが人を探してるってこと仲間に「相談」しておくよ。

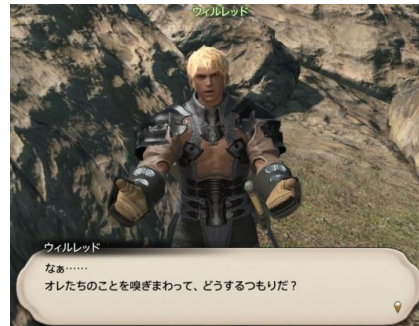
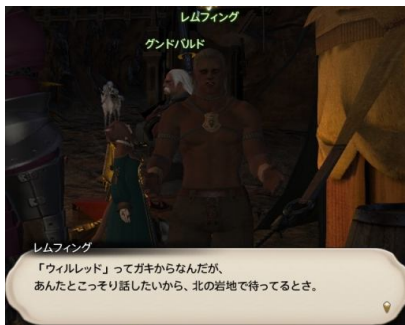
テールボット： ……聞く相手、間違ってるんじゃない？ たしかにコソコソやってる連中もいるみたいけど、
オレに言わせりゃ、あんなの腹が減るだけさ。

グンドバルド：話は聞けたか？……そうか、彼らは何か企んでいるようなのか……。
お前の追う男も、無関係ではないようだ。彼らなりの理由があるのだろうと咎めずにいたが……どうも、雲行きが怪しい。
彼らの目は、理不尽な宿命への怒りに燃えている。かつて故国が在りし頃、暴君の打倒に立ち上がった、私たちと同じ目だ。
……しかし、今は耐えるとき。私たちの革命は帝国に利用され、故国を滅ぼした。
怒りは時に目を曇らせる……同じ轍を踏まなければ良いが。
冒険者よ、お前に改めて助力を請いたい。もし彼らの企みを知ることがあれば、私に報せてくれ。

ある青年の呼び出し

レムフィン：おっ、グンドバルドさんとの話は終わったのかい？ あんた宛に、伝言を預かってるんだよ。
「ウィルレッド」ってガキからなんだが、あんたとこっそり話したいから、北の岩地で待ってるとき。
あいつは、ここ若い奴らをまとめているんだ。グンドバルドさんに認められた冒険者なんて珍しいから、話を聞きたいんじゃないか？

ウィルレッド：待ってたよ、冒険者さん。あなたが信頼できる人だと見こんで、ひとつ聞きたいことがあるんだ。
なあ……オレたちのことを嗅ぎまわって、どうするつもりだ？
帝国のスパイか、人拐いの手先か……。どちらにせよ、邪魔させるものかよ！おい、シメ上げろッ！



ウィルレッド：くっ、腕も立つってワケかよ……。余裕ふりやがって……。くそおおッ！！
だが、作戦は続けるぞ！ 殴られたって止めるものか……。薄暗い洞窟で死を待つだけが、オレたちの一生じゃない！
帝国を倒せば、こんな生活は終わるんだ。力を手に入れて、オレたちの敵を一掃してやるッ！

グンドバルド：……なんだと？ウィルレッドが、そんなことを……。良からぬ企みとは思っていたが、まさか刃を向けるとは。
お前には、すまないことをしたな。若い衆が、そこまで追い詰められていたとは……。

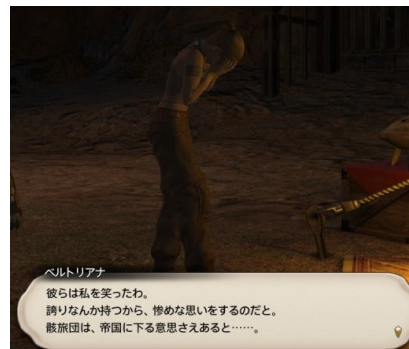
若き血の暴走

グンドバルド：ウィルレッドは、帝国を倒すと言っていたそうだが……。いったい、何を仕掛けるつもりだ……？

ベルトリアナ：グンドバルド、さま……………。

グンドバルド：ベルトリアナ……！？ その様子はどうしたことだ。三日も戻らず、今までどこへ……？

ベルトリアナ：町を出て、食べるものを探していたの……。そしたら突然、骸旅団に襲われて、彼らの隠れ家で……。ううっ……。
彼らは私を笑ったわ。誇りなんか持つから、惨めな思いをするのだと。骸旅団は、帝国に下る意思さえあると……。
みんなと故郷で暮らすことを願うのは……。アラミゴの民を名乗るのは……。もう、間違いなのですか？



グンドバルド：なんとということだ……。ひとまず火のそばで休みなさい、ベルトリアナ。その話を、ほかの誰かにしたか？

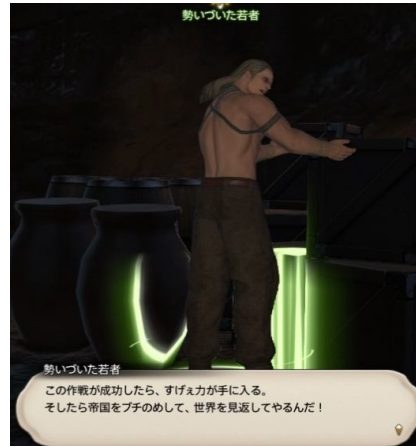
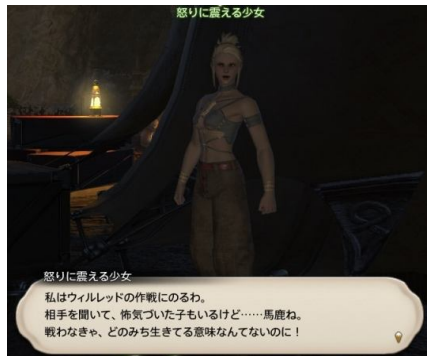
ベルトリアナ：はい、入り口でウィルレッドに。そうしたら彼、ものすごい形相でどこかへ……。

グンドバルド：この子を預けて、仲間たちと話をしてくる。お前は町の中を見回って、若い衆の様子を見てくれ。……手間をかけてすまない。

ウィルレッド : 壊神ラルガー……アラミゴの神よ……オレたちに力を貸してくれ……。止めるつもりなら遅かったな。ほとんどの仲間は、もうここを出たぞ。あとは、アイツに言われたとおりにするだけだ。クリスタルさえ持ち帰れば、もう誰も、オレたちを虐げられない……！

怒りに震える少女 : ペルトリアアナ……かわいそうに……。あんな畜生どもにまで見下されるなんて、こんなみじめな生活、もう耐えられない！私はウィルレッドの作戦にのるわ。相手を聞いて、怖気づいた子もいるけど……馬鹿ね。戦わなきゃ、どのみち生きてる意味なんてないのに！

勢いついた若者 : この作戦が成功したら、すげえ力が手に入る。そしたら帝国をブチのめして、世界を見返してやるんだ！フヌケたジジイの手先に、教えることなんかねえ。さあ俺も……って、見取り図はどこにやったっけ……。



グンドバルド : 彼らの様子はどうか。先ほどから姿が見えない者がいるが、もしや……。狩りに使う短剣、それにザンラク……アマルジャ族の砦の、詳細な見取り図だ。まさか、ここからクリスタルを持ち帰ると？無謀だ、たどり着く前に殺される。クリスタルを求める理由は定かでないが、アマルジャ族がどれほど危険か、わかっていない……。冒険者よ、もう一度だけ力を貸してくれ。地図によると目的地は東、今から追えば、あるいは……。！

グンドバルド : ……ウィルレッド。生きているのは、これだけか？

ウィルレッド : 違う……違うんだ……こんなはずじゃない……。オレたちはクリスタルを手に入れて……帝国を……。

グンドバルド : ウィルレッド！！

ウィルレッド : ち、力がほしいなら、クリスタルと祈りを捧げて、「壊神ラルガー」を呼び降ろせと言われたんだ……。だからアマルジャ族の砦に忍び込んで、奴らが蓄えてるクリスタルを盗もうとした……。でも、すぐに見つかって……。！



猛々しいアマルジャ族 : 逃がさぬぞ、厚顔無恥なる人の子よ！ 我らが御神に捧ぐ、聖なる供物を狙いし罪……その魂をもって償わせん！

グンドバルド : 若い衆の粗相は謝罪しよう。だが、魂を差し出せというのは、できない相談だ……。今は未熟でも、彼らは国なき我らの希望。未来のために足掻くならば、その責任を共に負おう！

刹那のウィルレッド : グンドバルドさん……オレたちは、ただ力が欲しかったんだ！
不屈のグンドバルド : 弁解は後だ。今は、生きることだけ考えろ……！
熱牙のヘモズ・デー : 油断大敵……！ 罪人め、ここで討ち滅ぼさん！
不屈のグンドバルド : 若き同胞の命、対価にしては余りある……。これ以上は、くれてやるものか！
冒険者よ、ウィルレッドを護ってやってくれ！
熱牙のヘモズ・デー : 形勢不利、かくなる上は……出あえ、御神の聖火に焼かれし者よ！
ウィルレッドの手下 : ちくしょう……ちくしょうッ……！！
ウィルレッドの手下 : 嫌だ、生きていたいよ……。
不屈のグンドバルド : もう少しだ……押し切るぞッ……！

グンドバルド : これほど腕が立つとはな……。うちの若い衆など、歯が立たないはずだ。
ひとまず、リトルアラミゴへ戻ろう。追っ手が来ないとも限らない……ここは危険だ。

ウィルレッド : ま、待ってくれ！ クリスタルを持って帰らないと……二人と一緒になら、きっとやれる！

グンドバルド : お前も、アマルジャ族に連れられてきた「焼かれし者」……テンバードを見ただろう。
ウルダハの「不滅隊」からは隠せと言われているが、あれこそ、神に触れた者の末路だという……。
お前の望みは……あなることか？

ウィルレッド : う、嘘だろ！？ 「仮面の男」は、そんなこと言ってなかった！ 帝国を倒したければ、神を呼び降ろせて……！

グンドバルド : その話は、戻ってから聞かせてもらおう。冒険者も交えて、じっくりな……。

グンドバルド : もう隠し事はなしだ、ウィルレッド。お前に計画を与えたのは「仮面の男」だったのだな……？

ウィルレッド : ……ああ、そうだよ。仲間と話しているところに、アイツが現れたんだ。力を欲する者に、知恵を与えると saying いた。
でも、それきりだ。煙のように消えたから、どこへ行ったのかも知らない。
結局、騙されただけさ……。今度こそ変えられるなんて、どうして信じたんだろうな。
アラミゴ人は、惨めに死んでいくしかないのに……。

グンドバルド : ウィルレッド。我々の故郷はアラミゴだが、それがお前のすべてではない。どう生きるかは、お前次第だ。
何を求めるにしても、困難な道になるだろう。だが、お前の命が、異郷の冒険者に救われたこと……忘れずにいるといい。

ウィルレッド : ……………少し、考えてみるよ。
すまなかったな。あと……ありがとう。

グンドバルド : 私からも礼を言おう……。お前のような御仁がいることが、明日を生きる希望となる。本当に、世話になったな。



束の間の帰還

グンドバルド : お前の追ってる「仮面の男」については、ウィルレッドが言っていたことがすべてだ。我々が知り得ることは伝えた……。
別れは惜しいが、調査を続けるのであれば、ほかの地をあたるべきだろう。お前の仲間と、相談してみるといい。

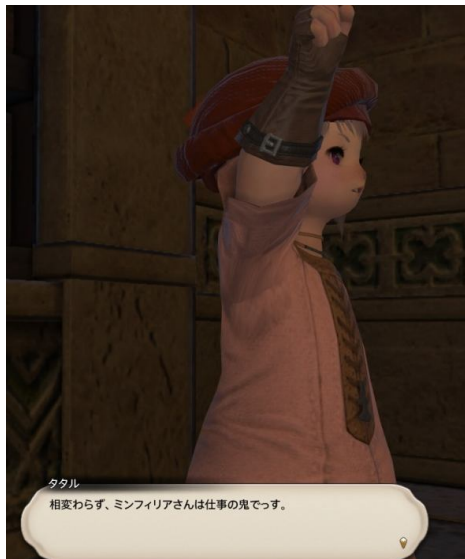
ミンフィリア : おかえりなさい！ ハリベルトから聞いたけれど、ずいぶん大がかりな旅をさせてしまったようね。
無事に「仮面の男」の情報（はつかめたのかしら。あなたが解決したリトルアラミゴの問題、聞かせてくれる？
窮乏に喘ぐアラミゴの青年たちに、神降ろしの知識をあたえるだなんて……。まさに、争いの火種をまいていたわけね。
各地で起きている問題は、第七霊災の混乱が招いたものだと思っていたけれど……裏で、何かが動いているのかもしれない。
この問題、もう少し深く調べてみましょう。蛭神に関する報告も、入っていないことだしね。

タル : 相変わらず、ミンフィリアさんは仕事の鬼です。

ミンフィリア : ……何か言ったかしら？

タル : し、失礼します！

ミンフィリア : ……コホン。少し休んでから、次の調査の話をしましょう。



浮き村の怪事件

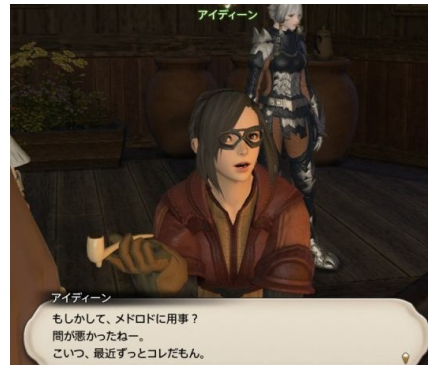
ミンフィリア : さて、アシエンの調査を再開しましょう。あなたがザナランで調査をしている間に、新たな情報が入ったのよ。シルフ族の情報網によると、黒衣森の北部で、アシエンと思しき「仮面の男」が目撃されたそうよ。周辺では、怪しい事件も起きてるみたい……。リトルアラミゴの状況とも一致するし、「当たり」の可能性は高いわ。ノラクシアから詳しい話を聞いたら、さっそく現地へ向かってちょうだい。今度こそ、奴らの尻尾を掴みましょう！

ハリベルト : アラミゴ人は二種類いる。立ち向かうゆえに苦悩する者と、逃げてしまった軟弱者だ。向こうの小僧は前者。……俺は後者ってわけさ。

ノラクシア : やっと出番なのでふっち？わたびが頑張って調べた「ジョウホウ」を、ありがたく聞くのでふっち。わたびには「アッシュクラウン商会」という、クリスタル売りのおともだちがいるのでふっち。その子たちが聞いたお話でふっち。フォールゴウドの「メドロド」っていう山師が、仮面を被ったコワ〜イ人に、会ったらしいのでふっち。きっと、探してる悪い子なのでふっち！

メドロド : なんだよオ……俺のことは、放っておいてくれよオ……！
どうせ俺は死ぬんだ……！ 死神を見た奴は、あの女みたいに殺されるんだよオ……！

アイディーン : もしかして、メドロドに用事？間が悪かったねー。こいつ、最近ずっとコレだもん。好物の「レンティル&チェスナット」でも食べさせて、「なだめて」やれば、落ち着くかもね。「レンティル&チェスナット」なら、グリダニアで扱ってるはずだよ。



メドロド：なんで、あんなもの見ちゃったんだ……。うっうっ……。親不孝な息子でごめんよ、母ちゃあん……。うっうっ？　なんと、俺の大好物じゃないか！　豆と栗のホクホク加減に、今日はホロリと涙が出るぜ。これも食い納めか……。うっうっ……。

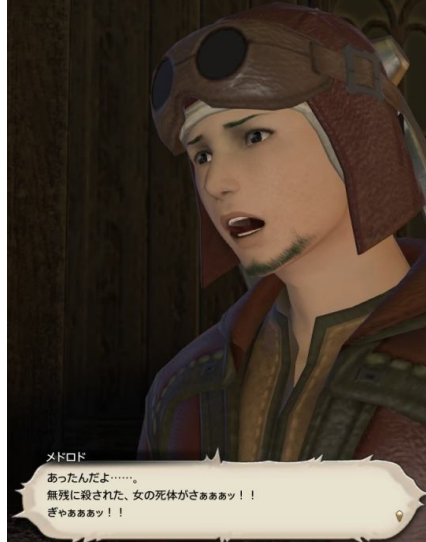
俺を哀れに思って、好物を差し入れてくれたんだろ？　うっうっ、やっぱり俺は死ぬんだあ……。うっうっ、あんた、いい人だなあ……。言われてみれば、俺、殺される理由がねえや。ただ、不吉なものを見ただけだ。忘れもしねえ、アレは採掘終了の鐘が鳴ったときのことだ。目玉の化け物を従えた「仮面の男」を見かけたんだ。不気味に思って、そいつの来た方を見ると……

あつたんだよ……。無残に殺された、女の死体がさあアッ！！　ぎゃああアッ！！

……。目玉の化け物が出た後には、必ず死体が見つかるんだ。俺はすぐに悟ったね……

化け物を従えていた「仮面の男」は、死神に違いねえって！

あの「仮面の男」を追っているって！？　……つまりお前は、このフォールゴウドで起きている怪事件に興味があるんだな！？



アイディーン：そーいうことなら、わたしらに任せてよ！　山師の楽しみときたら、晩酌と無駄話だけなんだから！

イヴォロー：まったくです。メドロドが湿気っていた分、駄弁が溜まっていますね。へっ、お前ら……。さすがだぜ！　俺たちで、この親切的冒険者を助けてやろうぜ！！

採掘場の切り裂き魔

アイディーン：怪事件のこと、さっそく聞いてくれるの？　実はね……。最近見つかった死体には、共通点があるんだ。……。それは、みんな顔が……。ヒイイイ！

この辺りで、あんな傷を残せるのは「ジズ」くらい。だから、死んだ人たちはジズに襲われたんだって意見もあるんだけど……。まずはそこをはっきりさせて、「仮面の男」と事件のカンケーを洗おうよ！　ジズを何匹か倒して、証拠が出ないか確認してきて！

アイディーン：おおっ、ジズを倒してきたんだ！　あの痛そーな爪や牙に動じないなんて、さすが冒険者！　……。それで、証拠は出てきた？　何もないってことは、ジズに襲われた説はなさそうだね。そうすると……。『仮面の男』と『目玉の化け物』がやっぱり怪しいよね～！

怨念岩の謎

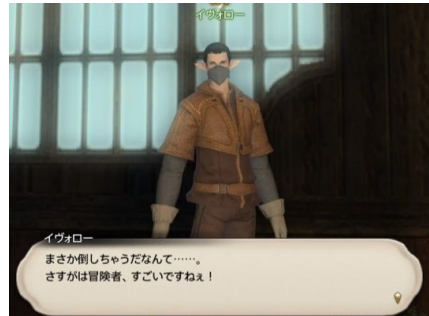
アイディーン：怪事件にまつわる噂、もうひとつ知ってるよ。実はね、殺されたのは……。みんな若い女の子なんだって！　南西の岩場に大きな岩があるんだけど、そこには、殺された少女たちの怨念が集うらしいの……。岩が光ったり、呻き声をあげてたって、山師の間で噂だよ。この際だから、その岩をくわしく調べてみようよ！　仕事で使う「採掘用の発破」を貸すから、岩をドカーンと砕いて、欠片を持ってきてほしいな！

アイディーン：少女の怨念が集う岩……。気味が悪くて誰も近寄らなかつたけど、恐れ知らずの冒険者によって、ついにドカーンだね！　なあんた、これ、偏属性クリスタルじゃない！　表面が汚れてるから、気付かなかつただけかー。雷の属性を帯びたクリスタルが、光や音を発してたんだね。うーん、「仮面の男」の事件とは関係ないかあ。使い道がない偏属性クリスタルには買い手もつかないし、どうやら、骨折り損だったみたいだね……。

逢魔が時に光る瞳

イヴォロー : ああ、やっと誰かに話すことができます。メドロドを余計に怯えさせるといい、黙っていたのですが、実は……僕も「目玉の化け物」を見たのです！
ちょうど、メドロドが化け物を見たのと同じころ……作業終了の鐘を聞いて帰ろうとした僕の前に、ふっと影が落ちました。見上げると、ギョロリとした目が僕を睨んでいたのです！ 思わず悲鳴をあげて、一目散ですよ……。もう化け物がいないか、西の岩場を見てきてくれませんか？

イヴォロー : えっ……西の岩場に、「ヘヴィ・ペーンマイト」が現れたんですか？ そいつは屈強な山師も震えあがる、凶悪な魔物なんですよ！？ まさか倒しちゃうだなんて……。さすがは冒険者、すごいですねえ！
……でも、おかしいな。たしかに「目玉の化け物」を見たと思ったのに……まさか、僕の見間違いだったのでしょうか？



推理は踊る

メドロド : うーん、パツとした情報が出ねえなあ。これじゃ、いつまで経っても、怪事件の真相にたどりつかねえ。
……って、どうしたイヴォロー。やけに浮かない顔してるな？

イヴォロー : ……やっぱり、見間違えだとは思えないんですよ！ 僕が見たのはヘヴィ・ペーンマイトではなく、「目玉の化け物」だったはずなんです！

メドロド : そうは言っても、俺が行った採掘現場とお前が行った現場とじゃ、距離が開きすぎたら。同じ時刻に、同じ化け物を見れるはずがねえや。
それに、この嬢ちゃんにも見てきてもらったんだろ？ 現れたのは、蜘蛛の魔物だったそうじゃないか。

イヴォロー : それでも、見たんです！ 巨大な目玉に羽が生えたような、不気味な化け物だった。今夜のアップルタルトを賭けてもいい！

アイディーン : お、そりゃ本気だね。「目玉の化け物」が何匹いるかハッキリしないなら、一匹くらい、イヴォローの方にいたかもよ？
……ん？ ってことは、イヴォローがいた西の岩場に、まだ見つかってない死体があるかも……？

三人の山師 : ……………。

メドロド : こ、ここから先は、専門家に任せた方がよさそうだな！ 俺たちは、た、ただの山師だしッ！ ……ううっ。

アイディーン : そ、そうだねえ〜！ 冒険者さん、短い間だったけど、楽しかったよ！

イヴォロー : 真相はとっても気になりますが……ほ、ほら、知らない方がいいこともあるでしょう？
西の岩場の調査は、冒険者さんにお任せしますね。
何か見つけちゃった場合は「双蛇党」の詰所へ……。僕らはあとでこっそり顛末を聞いて、酒のサカナにでもさせてもらいますよ。



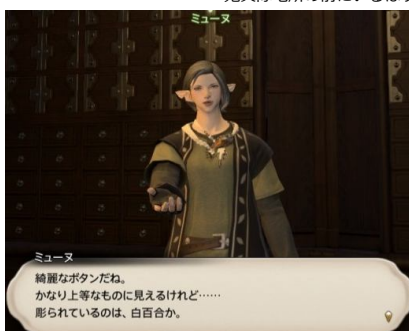
エーセルメル牙曹長 : 「双蛇党」への相談なら、私が受けよう。……もしや、何か事件でも？
……なるほど。人探しのために怪事件を調べていたところ、この死体を発見した、と。
酷いな……。近頃、同じような死体が、中央森林でも発見されている。
「仮面の男」についての報告は聞かないが、「目玉の化け物」ならば、たびたび目撃されている。
どうやら、奴らが死体を運んでいるらしいな。
死体はすべて、若い女性のもの。このような状態では身元も調べられず、我々も手を焼いて……ん？
白百合が彫られたボタン……前に発見された死体にも、同じ物がついていたな。珍しい装飾だったので、よく覚えていた。
何かの組織か、あるいは家紋か……？ お手柄だ、◆◆◆。お前のおかげで、この怪事件が進展するやもしれんぞ。

白百合は謡う

エーセルメール牙曹長：死体がつけていた「**白百合紋のボタン**」をお前に預ける。この怪事件を追っていけば、お前が探している、「仮面の男」に近づくことができるかもしれん。
人探しのためとはいえ、お前は近隣の魔物討伐にも一役買ってくれたからな。事件の大事な証拠品だが、今回は特別だ。
……そうだな、まずはこのボタンを持ってグリダニアの冒険者ギルドで聞きこみをしてはどうだ。冒険者ならではの情報網もあるだろう？

ミューヌ：おや、◆◆◆じゃないか！ 僕のハーブティーを飲みに来た……って様子じゃないね。どうかしたのかい？
綺麗なボタンだね。かなり上等なものに見えるけれど……彫られているのは、白百合か。
残念だけど、心当たりがないな。エーテライト・ブラザを警備している「ベルナデット」なら
同じものをつけた人を見ているかもしれないね。

ベルナデット：ボタンの持ち主を探している？ ここを行き来する冒険者なら、大抵は覚えているけれど。……どんなボタンなのかしら？
飾りボタンみたいね……残念だけど、心当たりはないわね。それに、白百合はグリダニア市民が好む意匠よ。
グリダニア市民のことなら、旧市街を担当している「セイングレド」の方が詳しいわ。
鬼哭隊屯所の前にはいるはずだから、聞いてみたら？



セイングレド：ベルナデットが私を頼れと？ はあ……どんな用件なんだ。私は彼女ほど、無駄に記憶力がいいわけじゃないぞ。
これほど贅（ぜい）を凝らした装飾品は、グリダニアの一般市民には縁遠いものだ。つけるとすれば「名士区」の……
待てよ、そういえば名士区の入り口に、これとよく似たボタンをつけた男がいたな。場所はわかるか？ 橋の先の三叉路を北だ。

ウルサンデル：貴方は……？ わたくしに、何かご用でしょうか。
ああ……ああ……！ 見間違っはすもございません！ 気高き白百合の意匠は「**ダルタンクール家**」が掲げる印！
貴方は、これをどちらで？ ……無残な死体から？ ああ、その答えだけは、聞きたくありませんでした！
もはや、知らぬふりはできません……。哀れな娘たちの死の真相と、ダルタンクール家の……
アマンディヌお嬢様の悲劇について、お話ししましょう。



ダルタンクール家の悲劇

ウルサンデル：わたくしは、グリダニアきっての名門、ダルタンクール家に仕える使用人でございました。
現当主のアマンディヌお嬢様は、美しく聡明なお方。しかし、第七霊災で顔に深い傷を負い、屋敷にこもるようになってしまったのです。
お嬢様が頼ったのは、怪しげな仮面の男たちでした。傷を癒す儀式は、日を追うごとに残酷になり……
何かに取り憑かれたように、お嬢様は変わってゆかれた。
まるで悪夢のようでした……。使用人たちは戯れに責め苛まれ、美しいメイドたちは拷問の後、無残に殺された。
わたくしは、死体を運び出すよう命じられ、そのまま逃げだしてきたのです。
振り返るな、思い出すなと自分に言い聞かせながら……。
貴方は、一角の冒険者とお見受けします。真実を暴いたその手で……どうか、どうか悲劇を終わらせてくださいませ！
お嬢様の住まう屋敷は、中央森林の西端……名を「ハウケタ御用邸」と申します。何とぞ、お力をお貸しください！



ウルサンデル

お客様の住まう屋敷は、中央森林の西端……
名を「ハウケタ御用邸」と申します。
何とぞ、お力をお貸しください！



???? : ……この屋敷は、闇で満たされている。

???? : ボクたちが少し手を貸すだけで、ここまでの闇に育て上げることができるとはネ。

???? : 屋敷の女主人は、余程、強い執念があったようだ。……その想いに感服するよ。

十二杖のアシエン : オマエが、件の冒険者だネ。……司祭様のおっしゃるとおりダ。「啓示空間」の中で、平然と戦えるなんてサ。

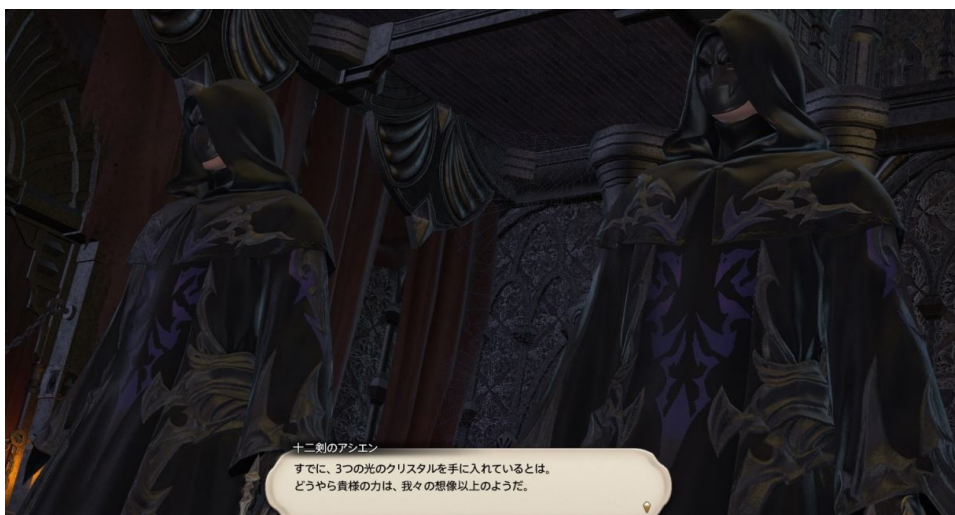
十二剣のアシエン : すでに、3つの光のクリスタルを手に入れているとは。どうやら貴様の力は、我々の想像以上ようだ。
そうか、クリスタルを入れる課程で貴様は強くなり、その強さがあるからこそ、光の顕現を促しているのだな。

十二杖のアシエン : さすがに、光の使徒なだけはあるネ。……ハイデリンが、オマエに執着する理由もわかるヨ。

十二剣のアシエン : しかし、その力も我々にとっては少々不都合なもの。これ以上、ハイデリンの意のままに動かれても困るのだ。

十二杖のアシエン : おっと、戦いに来たんじゃないサ。オマエの力を記録して、ボクたちの指導者……深淵の司祭ラハブレア様にお伝えるだけだヨ。

十二剣のアシエン : 我々は、天使いアシエン……。……この星が「真の姿」を取り戻すために、闇によって光を払う存在……。



十二剣のアシエン

すでに、3つの光のクリスタルを手に入れているとは。
どうやら貴様の力は、我々の想像以上ようだ。

ウルサンデル : ああ、よくぞ無事にお戻りで！ 屋敷の様子は……お嬢様はどうなったのですか！？
……なんと、そのようなことが……。妖異にすぎるほど、お嬢様の悲しみは深かった……。
お支えできなかったことが、悔やまれてなりません。
……貴方様をご覧になったとおり、屋敷に出入りしていた「仮面の男」は2人。しかし様相では、同じ人物かどうか疑わしい……。
いつか必ず、奴らに鉄槌を下してください……！ わたくしは、鬼哭隊に事の顛末を報告し、
恐怖のあまり、口をつぐんだ罪を償いたいと思います。

ミンフィリア : おかえりなさい！ よかった、あなたの帰りを心待ちにしていたの。報告を聞いてもいいかしら？
アシエン・ラハブレアの配下と思しき、2人のアシエンですって……。
つまり彼らは、何らかの目的をもって、組織的に動いているってこと……。？
それにしても、少しでも情報を得ることができればと思っていたけど、まさかアシエンに会ってただなんて。
「大当たり」だったってわけね。
でも、思っていた以上に厄介ね。全容の見えない相手から守り続けるには、エオルゼアは広すぎるもの。
悔しいけれど、わたしたちだけで対抗するのは難しそう。あなたが調べてくれたことを各国に伝えて、警戒を促しましょう。
世界には、悲しみが絶えないわ。アシエンが付け入る隙は、どこにでもある……。
……だからこそ、あなたが勝ち取った情報で、救われる人もいるはずよ。この地に生きる仲間たちの、強い心を信じましょう。
これで一旦「仮面の男」の捜査を終了とします。おつかれさま、◇◇◇！
当面は、蜜神討伐に注力してもらうことになるわ。ちょうど動きもあったことだし……準備ができれば、みんなを呼んで話をしましょう。

